ISSN1343-7151

# 日本特別活動学会紀要

## 第29号

〈特集論文〉 なすことによって学ぶ～その理論と実践
佐々木正昭 「なすことによって学ぶ」という用語についての考察 …… 1
清水 弘美 『なす』と『学び』はどのように行われるか（実践） …… 9
清水 克博 『なす』と『学び』を結ぶ「振り返り」の可能性
—「キャリア・パスポート」との関わりから— …… 15
玉木 博章 特別活動実践における振り返り活動の指導の再考
—「なすことによって学ぶ」経験によるキャリア発達と人間形成のために— …… 23

〈研究論文〉
久保田（河本） 愛子
中学・高校での学校行事体験が大学生活に及ぼす長期的効果
—集団社会化理論の視座からの回顧的検討— …… 31
京免 徹雄 アメリカ人研究者からみた日本の特別活動の特質
—日本型教育モデルの発信を視野に入れて— …… 41
小林 元気 児童会・生徒会投票選挙の経験と主権者教育の知識定着の関連性
—社会調査の二次分析による特別活動の教育効果に関する定量的実証研究の可能性— …… 51

〈実践論文〉
渡部 裕司 付せんを用いた委員会活動活性化の試み …… 61
小沼 豊 小学生の援助要請を促進させる授業実践
—５年生の授業実践「いじめの避難訓練」を通して— …… 71

〈図書・資料紹介〉
山口 満 安井一郎他編集・解題
『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集』クロスカルチャー出版 …… 81
2018～2019年度会員の著作一覧 …… 83

〈重点課題研究プロジェクト報告〉 …… 84

日本特別活動学会第29回大会報告 …… 93
会務並びに事業報告（令和２年度）・決算（平成31・令和元年度）・予算（令和２年度） …… 94
日本特別活動学会会則 …… 97
日本特別活動学会賞規程 …… 99
日本特別活動学会紀要編集規程 …… 100
日本特別活動学会紀要論文投稿要領 …… 101
日本特別活動学会紀要論文投稿申込書 …… 103
日本特別活動学会入会申込書 …… 105
編集後記 …… 106

2021年3月

《図書・資料紹介》

# 安井一郎・金馬国晴・渡邊和成　編集・解題
# 『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集』第１巻～第９巻
## クロスカルチャー出版、2018 ～ 2020 年

山口　満

本書は、書名が示しているように、戦後初期におけるコア・カリキュラムの代表的な事例を取り上げ、研究資料として、復刻、再版したものである。コア・カリキュラムの理論と実践の展開は、それを構成する「生活実践課程」「日常生活課程」等との関連で、「特別活動」の前身と言うべき「教科以外の活動」や「特別教育活動」の成立と深い関係を持っており、同書を「特別活動」成立史に関する研究のための基本文献として、ここに、紹介したい。教育活動としての「特別活動」の本質をその成立史という観点からみるために外すことが出来ない貴重な労作が上梓されたという思いで同書の紹介を試みている。

さて、本書は、３回に分けて刊行されている。

第１回配本：2018 年９月。第１巻～第３巻。収録内容は、東日本の 22 都道県の 40 校のコア・カリキュラム。

第２回配本：2019 年９月。第４巻～第６巻。収録内容は、西日本の 17 府県の 55 校のコア・カリキュラム。

第３回配本：2020 年６月。第７巻～第９巻。収録内容は、附属校編として、23 都道府県の 49 校のコア・カリキュラム。

上記にみられるように、全国で約 120 校の小、中学校および附属学校のコア・カリキュラムが収録されている。但し、第１巻～第６巻には、主に小学校のプランが収録されている。編集・解題者の一人である金馬国晴氏が「刊行にあたって」と題するパンフレットに記されているところによれば、「一般中学校については第４回配本として編集します」とあり（第７巻の「解題」にも同趣旨のことが述べられている）、中学校編の刊行が予定されている。中学校における「特別教育活動」の成立を、コア・カリキュラムの理論的、実践的な探求を通して明らかにされてきた「３層４領域」論や生徒会による自治活動を主軸にした学校生活づくりとの関連あるいは比較で考察するための貴重な資料が提供されることを期待したい。ここでの紹介では、既刊の全９巻を対象にしていることをお断りしておきたい。

先に指摘したように、本書では約 120 校のコア・カリキュラムのプランが取り上げられているが、発表年次についてみると、ごく大まかに言って、1948 年、49 年、50 年、51 年の４年間をピークにして、その前後数年間にわたっている。この傾向には、1948 年 10 月に、全国組織である「コア・カリキュラム連盟」が結成され、コア・カリキュラム運動が大きな盛り上がりをみせるが、その後、1951 年の「学習指導要領（試案）」によって、「教科以外の活動」（小学校）および「特別教育活動」（中学校）が新設され、カリキュラムの全体構造をめぐる問題に一応の落ち着きがみられるようになったという事情が反映していると思われる。但し、文部省が示した「教科以外の活動」「特別教育活動」とコア・カリキュラム運動の中で練り上げられてきた「生活実践課程」や「日常生活課程」との共通点や相違点については改めて検討してみなければならない課題である。1951 年の「学習指導要領（試案）」はその後の「特別活動」の基本的な骨格をつくることになったものであるだけに、この課題への取組は重要視されてよいと思われる。本書の活用が期待されるところである。

コア・カリキュラムは、戦後初期における民主主義教育の理念に立つ教育改革運動において、その先駆となる重要な役割を果たした。民主主義社会の建設の担い手となるために必要な能力や資質

を育てるためにどのようなカリキュラムを構成し、学習者に提供すればよいのかという問題意識から生まれた教育運動である。そのためには、中心課程（コア）と周辺課程から成る構造化されたカリキュラムを構想し、コアには、生活と社会の諸問題を主体的に解決する学習者の活動をもって充てることが意図された。民主主義、生活主義、児童中心主義、活動主義を基本とする教育である。そうした特色を持つカリキュラムが教師の創意と工夫によって編成され、実施された。こうして生まれた新しい教育活動がその後「特別活動」と呼ばれる特色ある教育活動に成長し、学校教育を支える基盤として活躍している。こうした筋道での「特別活動」の成り立ちを本書が提供している膨大な資料から読み取ることが出来るのではなかろうか。

本書を学生の「特別活動」研究に活用することをお勧めしたい。コア・カリキュラムは全国各地の学校で取り組まれた教育実践である。それだけに多様性をもっている。出身地や母校での実践例を取り上げてみることが出来る。コア・カリキュラムは、それぞれの学校における創意、工夫によって展開されている。科学的なカリキュラム構成のための子どもの生活やニーズに関する調査、あるいは地域調査が盛んに行われた。学力低下の批判にこたえるために基礎学力を測定するための「能力表」が作成された。学校や地域における教育活動に関する実践的研究の意義や方法について本書に収録されている実践事例から学ぶことは多いと思われる。

第１巻、第４巻、第７巻での「解題」は収録されているプラン全体を俯瞰するうえで大変参考になる。関連した先行研究に関する情報も的確に提供されている。

それにしても、コア・カリキュラムが活発に実践されたときから既に70年近い歳月を経ている。よくぞこれだけ多くの貴重な文献を収集できたものだという思いで膨大な資料を眺めている。大変なご苦労があったと思う。収集、分析、編集・解題等に当たられた３名の方々に心から敬意を表したい。